

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495300204		
法人名	有限会社 福祉サポート仙台東		
事業所名	グループホーム憩いの園 ユニット:1F		
所在地	仙台市若林区上飯田1丁目3番31号		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成28年12月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度の6月から訪問看護事業所と契約し、週1回の訪問看護に来ていただいております。訪問時の内容としては、利用者様の健康面のチェックや医療面の相談を行っております。また、看護師の24時間体制のオンコールも対応しており、利用者様の医療面において安心できる環境づくりに取り組んでおります。

地域との関わりにおいては、昨年同様隣接している保育園とも秋祭り・芋煮会でお互いを招待しあい、交流を図っております。また、今年度は市民センターで行われた消防訓練にも利用者様と一緒に参加しました。今後も地域との関わりを増やせるよう努めていきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは開所2年目、地域行事に積極的に参加すると共に事業所の広報紙を配布するなど、地域住民に知ってもらうための努力をしている。6月から訪問看護事業所と契約し、週1回の訪問による健康管理と、24時間体制のオンコールの体制になり、家族の安心につながっている。開所時の理念「笑顔あふれる家、あなたがあなたらしく過ごせる家、安心できるひだまりのような家」を今年も掲げ、職員は笑顔でケアするよう努めている。職員は利用者個々の要望に応じて支援することで、理念の実現を目指している事がうかがえた。運営推進会議では災害時の支援対応策等話し合い、危機管理意識も高まっている。管理者は職員の意見を大切に、職場環境の向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 GH憩いの園）「ユニット名 GH1F」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティングで全員で読み上げ、理念の確認・共有を行っております。昨年度の終わりには、現行理念について話し合い、今年度も継続する旨を確認しました。	ひだまりのように温かく安心して暮らせる家を目指している。職員は笑顔で接し、常に理念を意識して支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人で開催している秋祭りに近隣の保育園や婦人会、ボランティア等を招待しております。また、日常の買い物も利用者様と同行できるよう努めております。	町内会の回覧板に事業所の広報紙を載せることでグループホームのことを伝え、祭りやイベントを通して交流している。広報紙の回数を増やす事を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ミーティングにて認知症の勉強会を行っております。運営推進会議では利用者様の事例を挙げ、支援の取り組みについて報告しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホーム・町内会・地域包括支援センターの活動報告をしあい、地域の課題や協力体制等について話し合っております。	奇数月に、町内会長、役員、民生委員、地域包括職員、事業所総施設長、職員で開催している。利用者の状態、事故、行事について報告し、福祉関連の相談窓口を案内する支援マップ作りや、ハザードマップの確認を通して地域情報を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問などところがあればすぐに連絡し、アドバイスをいただいております。また、市町村で開催する研修会には積極的に参加しております。	利用者について相談し、情報を提供され運営に活かしている。市の研修会開催の情報を得て参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング内にて身体拘束の具体的な11の項目・3つの弊害について研修し、職員に対し理解を深められるよう努めております。	日々のケアを振り返り、事例をあげて研修を行い、理解を深めている。家族の同意を得て赤外線センサーを使用している。居室の戸に鈴を付ける工夫もしている。利用者の外出傾向を把握し、会話し、気持ちに寄り添って支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング内にて高齢者虐待の主な種類について研修を行っております。また虐待の起こる要因が介護者のストレスによるものも大きいことから、ストレスチェックシートを配布し、自身のストレス管理を促しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人の管理者会議に人権擁護委員協議会を招き研修を行いました。管理者はミーティングを通し、各職員へ研修内容を報告しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者が行っております。ご家族には契約時に十分な説明をし、ご理解いただけるよう努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様には生活のケアの中から要望を聞き取るように、ご家族には面会時に日頃の様子等も含めお話ししたり、要望の聞き取りを行っております。	家族の来所時や、電話で要望を聞いている。要望に応じてサイクルマシンを利用した運動を可能にするなど対応している。利用者からは日々の会話から要望をくみ取り、職員で共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からは随時日々の業務の中からの意見・提案の報告を受け、取り入れるよう努めております。また、H28.4月には管理者と介護支援専門員による職員の個人面談を行い、個人の意見を聞く機会を設けております。	管理者は意見を出しやすい環境づくりに努め、職員の意見を取り上げ、食事形態を変える・外出希望を叶える・ソファの購入希望等の実践につなげている。個人面談で仕事内容、シフト、有給の希望など聞いている。外部研修の機会を確保しケアの向上につなげ、資格取得も支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを整備し、経験や実績に応じてやりがいや給与に反映させております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修においては管理者を講師とし、お互いのスキルアップを図っています。また、外部研修においては職員が自ら受けたい研修を会社からバックアップし受講できる環境を整えております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域で行われる研修会や勉強会には積極的に参加してもらいサービスの質の向上に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には実態調査を行い、ご本人・ご家族・関係各所からの情報提供をいただいております。調査時にはご本人の要望・生活上の不安等を聞き出せるよう、また、それをケアにつなげられるよう努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談受付時にはご家族の要望等を聞き、入居に当たっての不安解決に対し一緒に検討しております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査の段階で得た情報をもとにご本人・ご家族とも相談し、必要なサービスを提供できるよう努めております。主治医やそれまでの担当ケアマネジャーからの意見もサービスにつなげられるようにしております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様自身のADLに合わせ、生活の中で役割を持っていただけるよう支援させていただいております。家事等を職員と共に、できないところは手助けさせていただくという形をとっております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時や電話等で利用者様の日頃の様子を伝え、ご本人に必要な支援について相談させていただいております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時には今までのかかりつけの主治医に継続して診ていただけるようご家族に勧めしております。また、面会に来られた方との時間を大切にいただけるよう居室へご案内しております。	職員が、利用者の買い物やおやつのお買い出しと一緒に出かけている。家族、親戚、友人が面会に来やすいように配慮している。家族と医療機関や理・美容院、墓参りに行けるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者には無理のないペースで他のご利用者との交流を図れるよう声掛けや会話支援をしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、何か介護サービスの件でお電話があった時は相談させていただいております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員はご利用者との会話を通し、ご本人の意向を支援に反映できるよう努めております。ミーティング時には各ご利用者毎のカンファレンスを行っております。	安心して暮らせるように、居室、入浴時、散歩の時の会話などから利用者の思いを把握し、職員間で情報を共有し、一人ひとりの思いに添った支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、それまで利用していたサービスの事業所の職員から情報をいただき、把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各ご利用者には居室担当者を配置しており、担当者中心に現状の把握に努めております。また、その情報はミーティングや申し送りにて情報の共有を図っております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者を中心にご利用者の現状・課題を話し合い、計画作成担当者が計画を立て、ご本人・ご家族には担当者会議にて確認しております。	毎月モニタリングし、3ヶ月毎に担当職員が中心になり、カンファレンスを行うほか、必要に応じて見直しを行っている。利用者、家族、関係者の参加で担当者会議を開催し、介護計画を見直し、説明、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録を取っており、職員間で情報の共有を図っております。介護記録の他にも健康チェック表・通院記録・看護記録等があり、それぞれを総合しミーティングでも話し合い、計画作成に反映できるよう努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の要望で通院の依頼があった場合は、通院介助のサービスを行っております。また、ご本人・ご家族からの要望は都度、支援できるよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等で得た地域の行事にはできる限り参加するようしております。防災訓練や市民まつり等、ご利用者と一緒に参加いたしました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、今後の医療機関の受診について相談させていただいております。それまでのかかりつけ医の継続、往診への切り替え等ご本人・ご家族の要望に沿えるように配慮しております。	かかりつけ医はそれぞれ希望する、協力医（往診医）や、ほかの往診医による月2回の検診を受けている。また、歯科検診を年1回全員が受けている。必要があれば訪問歯科を受けられる。専門医へは職員が付き添っている。受診時にはバイタル表と状態の記録を渡し受診結果を共有している。訪問看護との連携を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	H28. 6月から堀田修クリニックの訪問看護事業所の訪問看護を導入しました。週に1回の訪問・24時間のオンコール対応等ご利用者の医療・健康に対し支援をしております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際は医療機関と相談・情報交換をし、退院後もご利用者に安心して生活できるよう努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在はそういったケースはありません。終末期のあり方についてはご家族と話し合い、また、主治医からも意見をもらい、ご本人・ご家族にとってよりよい支援をできるようにしていければと思っています。	入居時に「看取りに関する指針」を説明し事業所が出来る事を説明している。看取りの実績は無い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人に事故委員会があり、事故発生時に備え定期的にミーティングを行っております。事故委員が各事業所の職員にミーティングの内容を議事録等で伝えております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は年2回行っております。運営推進会議にて消防訓練開催を告知し、地域への協力を呼び掛けております。婦人防火クラブの方に参加していただき、災害時の協力について確認いたしました。	警備会社職員が立会い、年2回避難訓練を行い、1回は消防署員も立ち会っている。地域の婦人防火クラブの参加もあり、助言などを得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティング内で、プライバシーの配慮について研修いたしております。また、日々の業務の中でも管理者・ユニットリーダーから職員に対する指導も心掛けております。	プライバシー保護の研修を行い、利用者の尊厳を損なわないよう声のトーンや言葉づかいに気を付けて声掛けしている。呼び名はさん付けで呼んでいる。排泄介助はさりげなく対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中のコミュニケーションからご利用者の意向を聞き取り、できる限りご利用者が自己決定できるよう努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所内の時間の流れは大まかに決めておりますが、ご利用者のペースに合わせ食事時間・入浴時間等臨機応変に対応し、一日を希望に添えるよう支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみができるよう、衣服はご利用者と一緒を選ぶよう支援しております。ご自身で選択が難しい方には本人本位に沿えるよう心掛けております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者のADLに合わせ、食事準備から片づけまで職員と共同で行っており役割を持っていただけるよう支援しております。	敷地内の同法人の事業所の調理室で作られた食事が届けられ、利用者が出来る範囲で自分の仕事として率先して準備、後かたづけをしている。おやつやお楽しみメニューは調理して楽しんでいる。外食も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し、一日のバランスを確保できるよう努めております。主治医・訪問看護師とも相談し、栄養状態の確認をしております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けをしております。介助が必要な方にはご本人の能力に合わせた支援を行い、口腔内の清潔保持に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各ご利用者の排泄パターンを把握できるよう介護記録に記入しております。記録をもとに職員同士情報共有し、できるだけトイレでの排泄ができるよう支援しております。	排泄パターンを把握し、トイレで出来るよう支援している。夜間は、ポータブルトイレやナースコールを使用する人もいる。便秘予防にヨーグルトや水分を取るようになっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操等を通して運動を促したり、便秘に効果のある飲食物を摂取していただく等便秘の予防・対応に努めております。状態により主治医・ご家族とも相談し、便秘薬を処方していただくこともあります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は夜間を除く午前・午後になっております。その中で、ご利用者と話しながら意向に沿えるよう入浴時間を決めております。	週2回入浴している。湯はたし湯をし、午前午後で交換する。入浴剤を使用したり、家族の持ってくるシャンプー使用の方もいる。一階には機械浴がある。無理せずに利用者のペースに合わせている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決めておらず、ご利用者のペースに合わせ就寝していただいております。眠剤が処方されているご利用者は主治医に服薬時間の確認し、安眠できるよう支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報のファイルに各ご利用者ごと情報をまとめてあり、職員で情報共有しております。症状の変化には主治医・訪問看護師に連絡し指示を仰いでおります。また、訪問していただいている薬剤師にも薬剤剤についての相談も随時しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族から入居前の生活状況を聞いたり、ご本人と生活する中で趣味・嗜好を聞き取り、支援に活かせるよう努めております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の必要物を一緒に買い物に行ったり、地域の行事にもできるだけ参加できるように支援しております。	近隣の公園へ散歩、コンビニ・スーパーマーケットへの買い物に出かけている。桜の花見、七夕、紅葉狩り、バラの花見、初詣等、車椅子対応車で季節を感じるドライブをしている。	外出の日を決めるなどして、今以上に日常的な外出の機会を増やし、利用者の楽しみを多くすることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が難しい為、ご家族が金銭管理されている方がほとんどですが、一部金銭を所持している方もおられます。その方には買い物時にご自身で払えるよう支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在は電話を利用しているご利用者はおりませんが、利用希望があれば支援させていただきます。手紙のやりとりは、ご利用者の依頼により職員が代筆の支援をしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間はご利用者にとって不快にならないよう清潔を保つよう努めております。また、廊下のコルクボードに時期ごとの行事の写真を掲示し、季節感・思い出の共有ができるよう配慮しております。	リビングや廊下は広く明るく、一角にサービスカウンターがある。温・湿度が適切に管理され空気清浄機・加湿器が置かれている。カレンダー・時計・トイレ表示の文字は大きく見やすい。ソファで寛ぐ方がおり、もう一つ増やしたいと考えている。廊下に各種行事での笑顔の写真が貼られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはソファを用意しており、くつろげる場所になれるよう配慮しております。テーブル席もご利用者同士の環境に合わせ、配置換えも含め一人ひとりが心地よく過ごせるよう努めております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には今まで使っていたものや写真等をお持ちいただくことで安心できる空間作りのお相談をさせていただいております。また、ホームでの生活の中での行事の写真もご本人の意向に沿い、提供もしております。	入口に顔写真と大きな文字の名前や飾りを付けてわかりやすい。ベッド、クローゼット、エアコン、洗面台、ナースコールが備え付けてある。転倒防止のため、家具の配置を考慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの看板、床のテープ(歩行器の置き場所)等ご本人にわかりやすくすることで一人ひとりのできる・わかるを活かせるよう支援しております。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495300204		
法人名	有限会社 福祉サポート仙台東		
事業所名	グループホーム憩いの園 ユニット:2F		
所在地	仙台市若林区上飯田1丁目3番31号		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成28年12月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度の6月から訪問看護事業所と契約し、週1回の訪問看護に来ていただいております。訪問時の内容としては、利用者様の健康面のチェックや医療面の相談を行っております。また、看護師の24時間体制のオンコールも対応しており、利用者様の医療面において安心できる環境づくりに取り組んでおります。

地域との関わりにおいては、昨年同様隣接している保育園とも秋祭り・芋煮会でお互いを招待しあい、交流を図っております。また、今年度は市民センターで行われた消防訓練にも利用者様と一緒に参加しました。今後も地域との関わりを増やせるよう努めていきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは開所2年目、地域行事に積極的に参加すると共に事業所の広報紙を配布するなど、地域住民に知ってもらうための努力をしている。6月から訪問看護事業所と契約し、週1回の訪問による健康管理と、24時間体制のオンコールの体制になり、家族の安心につながっている。開所時の理念「笑顔あふれる家、あなたがあなたらしく過ごせる家、安心できるひだまりのような家」を今年も掲げ、職員は笑顔でケアするよう努めている。職員は利用者個々の要望に応じて支援することで、理念の実現を目指している事がうかがえた。運営推進会議では災害時の支援対応策等話し合い、危機管理意識も高まっている。管理者は職員の意見を大切に、職場環境の向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 GH憩いの園）「ユニット名 GH2F」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティングで全員で読み上げ、理念の確認・共有を行っております。昨年度の終わりには、現行理念について話し合い、今年度も継続する旨を確認しました。	ひだまりのように温かく安心して暮らせる家を目指している。職員は笑顔で接し、常に理念を意識して支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人で開催している秋祭りに近隣の保育園や婦人会、ボランティア等を招待しております。また、日常の買い物も利用者様と同行できるよう努めております。	町内会の回覧板に事業所の広報紙を載せることでグループホームのことを伝え、祭りやイベントを通して交流している。広報紙の回数を増やす事を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ミーティングにて認知症の勉強会を行っております。運営推進会議では利用者様の事例を挙げ、支援の取り組みについて報告しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホーム・町内会・地域包括支援センターの活動報告をしい、地域の課題や協力体制等について話し合っております。	奇数月に、町内会長、役員、民生委員、地域包括職員、事業所総施設長、職員で開催している。利用者の状態、事故、行事について報告し、福祉関連の相談窓口を案内する支援マップ作りや、ハザードマップの確認を通して地域情報を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問なところがあればすぐに連絡し、アドバイスをいただいております。また、市町村で開催する研修会には積極的に参加しております。	利用者について相談し、情報を提供され運営に活かしている。市の研修会開催の情報を得て参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング内にて身体拘束の具体的な11の項目・3つの弊害について研修し、職員に対し理解を深められるよう努めております。	日々のケアを振り返り、事例をあげて研修を行い、理解を深めている。家族の同意を得て赤外線センサーを使用している。居室の戸に鈴を付ける工夫もしている。利用者の外出傾向を把握し、会話し、気持ちに寄り添って支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング内にて高齢者虐待の主な種類について研修を行っております。また虐待の起こる要因が介護者のストレスによるものも大きいことから、ストレスチェックシートを配布し、自身のストレス管理を促しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人の管理者会議に人権擁護委員協議会を招き研修を行いました。管理者はミーティングを通し、各職員へ研修内容を報告しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者が行っております。ご家族には契約時に十分な説明をし、ご理解いただけるよう努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様には生活のケアの中から要望を聞き取るように、ご家族には面会時に日頃の様子等も含めお話ししたり、要望の聞き取りを行っております。	家族の来所時や、電話で要望を聞いている。要望に応じてサイクルマシンを利用した運動を可能にするなど対応している。利用者からは日々の会話から要望をくみ取り、職員で共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からは随時日々の業務の中からの意見・提案の報告を受け、取り入れるよう努めております。また、H28.4月には管理者と介護支援専門員による職員の個人面談を行い、個人の意見を聞く機会を設けております。	管理者は意見を出しやすい環境づくりに努め、職員の意見を取り上げ、食事形態を変える・外出希望を叶える・ソファの購入希望等の実践につなげている。個人面談で仕事内容、シフト、有給の希望など聞いている。外部研修の機会を確保しケアの向上につなげ、資格取得も支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを整備し、経験や実績に応じてやりがいや給与に反映させております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修においては管理者を講師とし、お互いのスキルアップを図っています。また、外部研修においては職員が自ら受けたい研修を会社からバックアップし受講できる環境を整えております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域で行われる研修会や勉強会には積極的に参加してもらいサービスの質の向上に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には実態調査を行い、ご本人・ご家族・関係各所からの情報提供をいただいております。調査時にはご本人の要望・生活上の不安等を聞き出せるよう、また、それをケアにつなげられるよう努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談受付時にはご家族の要望等を聞き、入居に当たっての不安解決に対し一緒に検討しております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査の段階で得た情報をもとにご本人・ご家族とも相談し、必要なサービスを提供できるよう努めております。主治医やそれまでの担当ケアマネジャーからの意見もサービスにつなげられるようにしております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様自身のADLに合わせ、生活の中で役割を持っていただけるよう支援させていただいております。家事等を職員と共に、できないところは手助けさせていただくという形をとっております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時や電話等で利用者様の日頃の様子を伝え、ご本人に必要な支援について相談させていただいております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時には今までのかかりつけの主治医に継続して診ていただけるようご家族に勧めしております。また、面会に来られた方との時間を大切にいただけるよう居室へご案内しております。	職員が、利用者の買い物やおやつの買い出しと一緒に出かけている。家族、親戚、友人が面会に来やすいように配慮している。家族と医療機関や理・美容院、墓参りに行けるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者には無理のないペースで他のご利用者との交流を図れるよう声掛けや会話支援をしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、何か介護サービスの件でお電話があった時は相談させていただいております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員はご利用者との会話を通し、ご本人の意向を支援に反映できるよう努めております。ミーティング時には各ご利用者毎のカンファレンスを行っております。	安心して暮らせるように、居室、入浴時、散歩の時の会話などから利用者の思いを把握し、職員間で情報を共有し、一人ひとりの思いに添った支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、それまで利用していたサービスの事業所の職員から情報をいただき、把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各ご利用者には居室担当者を配置しており、担当者中心に現状の把握に努めております。また、その情報はミーティングや申し送りにて情報の共有を図っております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者を中心にご利用者の現状・課題を話し合い、計画作成担当者が計画を立て、ご本人・ご家族には担当者会議にて確認しております。	毎月モニタリングし、3ヶ月毎に担当職員が中心になり、カンファレンスを行うほか、必要に応じて見直しを行っている。利用者、家族、関係者の参加で担当者会議を開催し、介護計画を見直し、説明、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録を取っており、職員間で情報の共有を図っております。介護記録の他にも健康チェック表・通院記録・看護記録等があり、それぞれを総合しミーティングでも話し合い、計画作成に反映できるよう努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の要望で通院の依頼があった場合は、通院介助のサービスを行っております。また、ご本人・ご家族からの要望は都度、支援できるよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等で得た地域の行事にははできる限り参加するようにしております。防災訓練や市民まつり等、ご利用者と一緒に参加いたしました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、今後の医療機関の受診について相談させていただいております。それまでのかかりつけ医の継続、往診への切り替え等ご本人・ご家族の要望に沿えるように配慮しております。	かかりつけ医はそれぞれ希望する、協力医（往診医）や、ほかの往診医による月2回の検診を受けている。また、歯科検診を年1回全員が受けている。必要があれば訪問歯科を受けられる。専門医へは職員が付き添っている。受診時にはバイタル表と状態の記録を渡し受診結果を共有している。訪問看護との連携を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	H28. 6月から堀田修クリニックの訪問看護事業所の訪問看護を導入しました。週に1回の訪問・24時間のオンコール対応等ご利用者の医療・健康に対し支援をしております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際は医療機関と相談・情報交換をし、退院後もご利用者に安心して生活できるよう努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在はそういったケースはありません。終末期のあり方についてはご家族と話し合い、また、主治医からも意見をもらい、ご本人・ご家族にとってよりよい支援をできるようにしていければと思っています。	入居時に「看取りに関する指針」を説明し事業所が出来る事を説明している。看取りの実績は無い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人に事故委員会があり、事故発生時に備え定期的にミーティングを行っております。事故委員が各事業所の職員にミーティングの内容を議事録等で伝えております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は年2回行っております。運営推進会議にて消防訓練開催を告知し、地域への協力を呼び掛けております。婦人防火クラブの方に参加していただき、災害時の協力について確認いたしました。	警備会社職員が立会い、年2回避難訓練を行い、1回は消防署員も立ち会っている。地域の婦人防火クラブの参加もあり、助言などを得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティング内で、プライバシーの配慮について研修いたしております。また、日々の業務の中でも管理者・ユニットリーダーから職員に対する指導も心掛けております。	プライバシー保護の研修を行い、利用者の尊厳を損なわないよう声のトーンや言葉づかいに気を付けて声掛けしている。呼び名はさん付けで呼んでいる。排泄介助はさりげなく対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中のコミュニケーションからご利用者の意向を聞き取り、できる限りご利用者が自己決定できるよう努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所内の時間の流れは大まかに決めておりますが、ご利用者のペースに合わせ食事時間・入浴時間等臨機応変に対応し、一日を希望に添えるよう支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみができるよう、衣服はご利用者と一緒に選べるよう支援しております。ご自身で選択が難しい方には本人本位に沿えるよう心掛けております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者のADLに合わせ、食事準備から片づけまで職員と共同で行っており役割を持っていただけるよう支援しております。	敷地内の同法人の事業所の調理室で作られた食事が届けられ、利用者が出来る範囲で自分の仕事として率先して準備、後かたづけをしている。おやつやお楽しみメニューは調理して楽しんでいる。外食も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し、一日のバランスを確保できるよう努めております。主治医・訪問看護師とも相談し、栄養状態の確認をしております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けをしております。介助が必要な方にはご本人の能力に合わせた支援を行い、口腔内の清潔保持に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各ご利用者の排泄パターンを把握できるよう介護記録に記入しております。記録をもとに職員同士情報共有し、できるだけトイレでの排泄ができるよう支援しております。	排泄パターンを把握し、トイレで出来るよう支援している。夜間は、ポータブルトイレやナースコールを使用する人もいる。便秘予防にヨーグルトや水分を取るようになっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操等を通して運動を促したり、便秘に効果のある飲食物を摂取していただく等便秘の予防・対応に努めております。状態により主治医・ご家族とも相談し、便秘薬を処方していただくこともあります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は夜間を除く午前・午後になっております。その中で、ご利用者と話しながら意向に沿えるよう入浴時間を決めております。	週2回入浴している。湯はたし湯をし、午前午後で交換する。入浴剤を使用したり、家族の持って来るシャンプー使用の方もいる。一階には機械浴がある。無理せずに利用者のペースに合わせている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決めておらず、ご利用者のペースに合わせて就寝していただいております。眠剤が処方されているご利用者は主治医に服薬時間の確認し、安眠できるよう支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報のファイルに各ご利用者ごと情報をまとめてあり、職員で情報共有しております。症状の変化には主治医・訪問看護師に連絡し指示を仰いでおります。また、訪問していただいている薬剤師にも薬剤剤についての相談も随時しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族から入居前の生活状況を聞いたり、ご本人と生活する中で趣味・嗜好を聞き取り、支援に活かせるよう努めております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の必要物を一緒に買い物に行ったり、地域の行事にもできるだけ参加できるように支援しております。	近隣の公園へ散歩、コンビニ・スーパーマーケットへの買い物に出かけている。桜の花見、七夕、紅葉狩り、バラの花見、初詣等、車椅子対応車で季節を感じるドライブをしている。	外出の日を決めるなどして、今以上に日常的な外出の機会を増やし、利用者の楽しみを多くすることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が難しい為、ご家族が金銭管理されている方がほとんどですが、一部金銭を所持している方もおられます。その方には買い物時にご自身で払えるよう支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在は電話を利用しているご利用者はおりませんが、利用希望があれば支援させていただきます。手紙のやりとりは、ご利用者の依頼により職員が代筆の支援をしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間はご利用者にとって不快にならないよう清潔を保つよう努めております。また、廊下のコルクボードに時期ごとの行事の写真を掲示し、季節感・思い出の共有ができるよう配慮しております。	リビングや廊下は広く明るく、一角にサービスカウンターがある。温・湿度が適切に管理され空気清浄機・加湿器が置かれている。カレンダー・時計・トイレ表示の文字は大きく見やすい。ソファで寛ぐ方がおり、もう一つ増やしたいと考えている。廊下に各種行事での笑顔の写真が貼られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはソファを用意しており、くつろげる場所になれるよう配慮しております。テーブル席もご利用者同士の環境に合わせ、配置換えも含め一人ひとりが心地よく過ごせるよう努めております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には今まで使っていたものや写真等をお持ちいただくことで安心できる空間作りの相談をさせていただいております。また、ホームでの生活の中での行事の写真もご本人の意向に沿い、提供もしております。	入口に顔写真と大きな文字の名前や飾りを付けてわかりやすい。ベッド、クローゼット、エアコン、洗面台、ナースコールが備え付けてある。転倒防止のため、家具の配置を考慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの看板、床のテープ(歩行器の置き場所)等ご本人にわかりやすくすることで一人ひとりのできる・わかるを活かせるよう支援しております。		